

## 第40集 「食道がん」内視鏡治療について

医師 坂口 将文

今回は、食道がんの治療のうち、内視鏡治療についてお話します。

これまで食道がんの治療は開腹・開胸手術が主でした。しかし最近では、早期のものに関しては内視鏡（胃カメラ）での切除が可能となりました。これには主に2通りの治療法があり、「吸引EMR法」と「ESD法」と呼ばれています。

まずはその適応からお話しします。内視鏡治療の適応があるものは、異形成と呼ばれるがんの一步前の病気、そして早期のがん、となります。進行がんであればやはり手術療法や化学療法が主体となりますので内視鏡治療の適応からは外れてしまいます。

では次に内視鏡治療の実際の方法について解説します。

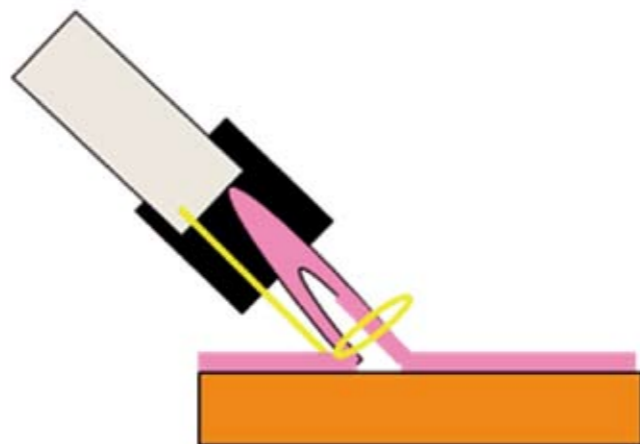
「吸引EMR法」ではまず食道がんの下に水を注射し、がんを持ち上げます。次にカメラの先端にキャップ、さらにその先端に金属の輪っか（スネア）を装着します。そしてキャップの中にごんを吸いこみ、金属の輪っかで縛り上げ、電気を流して切除し、治療完了となります。実際の治療時間は10分くらいです。

一方、「ESD法」は食道がんの下にヒアルロン酸というねばっこい液体を注射し、カメラの先端から小さな針を出し、粘膜の下を針でちよこちよこ切っていきます。だいたい10mmくらいの大きさのものであれば30分くらいで治療完了します。

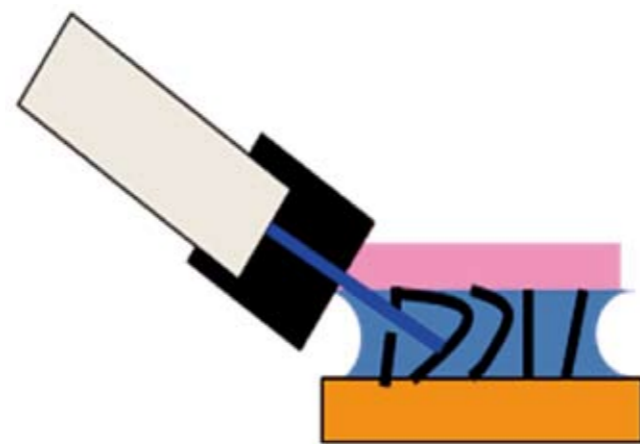
このどちらの方法にも一長一短があります。吸引EMR法は早く治療が済むというメリットがあるものの、切除した病変が細切れになりやすく、きちんと取りきれたかどうかの判断が難しくなります。一方ESD法は吸引EMR法よりも広い病変、そして深い層までの切り込みが可能で、病気を一括で取りきれるといったメリットがあるものの、食道を針の先端で突き刺して穴をあけてしまう（穿孔）危険性もあり、また吸引EMR法に比べればやはり時間を要します。

実際は個々の症例を判断しながら治療を選択していくことになります。

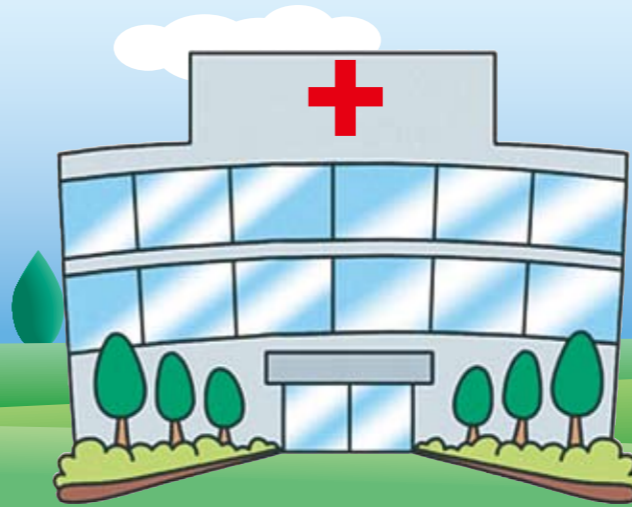
何か気になることがありましたら、お近くの医療機関にご相談ください。



吸引EMR法



ESD法



## 蘇陽病院だより

### ～蘇陽病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」

## もっと知りたいクスリの話

### 第12集 高血圧の薬について

薬剤科 奥村真利子  
監修 院長 水本 誠一

高血圧の治療の目的は、脳卒中や心臓病などの合併症を未然に防ぐことです。高血圧の薬は、食事療法や運動療法などをおこなっても血圧が下がらない場合、必要と判断されれば処方されます。

今回は、血圧を下げる薬についてお話します。

血圧を下げる薬には、大きく分けて6種類あります。

- ① 血管の収縮に関係しているカルシウムイオンの動きを抑えて、血圧を下げる。(カルシウム拮抗薬)
- ② 血圧を上げる物質の働きを抑えて、血圧を下げる。(ARB薬)
- ③ 血圧を上げる物質ができないようにして、血圧を下げる。(ACE阻害薬)
- ④ 体の中の水分の量を減らして、血圧を下げる。(利尿薬)
- ⑤ 心臓から送り出される血液の量を減らして、血圧を下げる。(β遮断薬)
- ⑥ 血圧を上げる神経の働きを抑えて、血圧を下げる。(α遮断薬)

血圧を下げる薬には、さまざまな種類があり、作用の仕方も違ってきます。1種類だけで改善しないときは、作用の違う薬を飲みわけて血圧を下げることになります。主治医は、患者さんにあった薬を選んで処方しているわけです。

血圧を下げる薬は、高血圧を治すための薬ではありません。血圧が下がったからといって、勝手に薬を止めたりすると再び血圧は上がってきます。また、薬を飲まないでいると、高血圧の状態が続く合併症を引き起こす原因にもなります。自己判断で薬を中止したり、飲む量を変えたりすることはやめましょう。

### ★いくつかの医療機関を受診するときに注意すること

成分が同じでも、異なった名前の薬が多くあります。病院を受診するときは、薬の名前がわかるようなお薬手帳などを利用して、必ず医師に伝えて下さい。

